

【地域が目指す「新たな森林・林業基本計画」の実現に向けて】

- 1 北海道では特に住宅で使用する国産材比率が低く、今後、道産木材の供給が増大した場合に需給バランスが崩れる可能性がある。
- 2 主伐期を迎える人工林が増えることによって、適切な更新の確保のために再造林コストの低減が必要である。

新たな森林・林業基本計画の実現

林産物の供給及び利用の確保に関する施策

森林の有する多面的機能の発揮に関する施策

新たな木材需要の創出

安定供給体制構築

適切な更新確保



ブース全体



会場の様子

【課題】

住宅着工数が減少する予測がある中、国産材需要が増加するため、取組が必要。

平成29年度の取組

「食べる・たいせつフェスティバル2017in旭川」に上川総合振興局と共同で参加し、パネル展示、住宅部材展示及び木工クラフト展示により、地域材を利用することの重要性や国産材の良さをPRした。

また、消費者の木材に関する意識や国産材の良さがわかるように工夫してアンケートを実施（300名に記念品を贈呈）。

【成果】

1. 木を使うことにより地球温暖化防止貢献を理解する者が約9割
2. 森林資源が利用期を迎えていることを知らない者が約6割
3. 森林の役割や木の良さを理解している者が約6～7割
4. パネル及びアンケートにより、国産材指向に転換した者が1割上昇。消費者はパネル及びアンケートの効果によって、国産材指向に転換した者が1割増加した。

【今後の取組】

アンケートの活用

地域の課題に解決に向け必要な新しいニーズを取り入れて取組を推進



意見交換会の様子

【課題】

木材の販売を効果的にするためには、ユーザの意向や意見を踏まえ、原木の採材等を行うことが必要。

木材の生産・販売などの事業を効率的、効果的な事業運営に反映させるため採材に関する意見交換会を開催し、製材工場、林業事業体と意見交換を実施し、上川総合振興局にも参加要請した。

ハーベスタによる伐木造材作業を確認した後、日本農林規格について説明。

【成果】

初めての製材工場との意見交換により、トドマツは太さとあてが問題で、細いあて材は桧木用、20cm以上は羽柄材に利用でき、材は曲りと木口の状態が重要であることが共通認識された。なお今後の採材の課題ともなった。また、広葉樹の意見交換会も実施してほしいと積極的な意見も出された。

採材方法を更に検証



検討会の様子

【課題】

下刈りについては、期間・回数を決めて実施しているが、画一性を排す検討が必要。

育林経費の低減に向けた取組として、下刈りの省力化に向けた現地検討会を開催し、林業事業体、上川総合振興局等と意見交換を実施。省力化に向けた成長調査の方法と考え方について提案し説明。

【成果】

下刈り省略予定の現地を見ていただき、省力化についての理解が得られた。今後、下刈りを省略した結果を見ながら検証していくことが課題である。また、種苗関係者から、ここはダケカンバの稚樹が更新しているため、広葉樹と合わせると更新完了で良いのではないかという意見も出された。

下刈り見合わせ